

静岡市美術館開館 10 周年記念

東海道の美 駿河への旅



静岡県指定文化財《東海道図屏風》静岡市

2020. 6.6(土)



7.19(日)

【プレスリリースの問い合わせ】 担当：大石 広報：岡田、大庭

静岡市美術館

SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852

静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

tel. 054-273-1515 (代表)

www.shizubi.jp

静岡市美術館開館 10 周年記念 東海道の美 駿河への旅

慶長六（1601）年、徳川家康は江戸と京都を結ぶ東海道に五十三の宿駅を設置します。古来より東海道の名所は多く絵画化されていましたが、参勤交代や物資輸送などで街道が整備されると、庶民も旅に出るようになり、やがて東海道そのものを主題にした絵画が広く普及していきました。

また、東海道は詩書画を好む駿河の文化人たちと上方や江戸の絵師たちとの交友も可能にしました。とりわけ江戸時代中期以降、京都の円山応挙一門や江戸の司馬江漢などによる新しい傾向の絵画は、駿河の人々に歓迎され、街道を通じて人や作品の往来がさかんに行われました。こうして東海道の間にある駿河でも江戸と上方双方の文化の影響を受け、多様な表現が展開することになります。

本展では、描かれた東海道と街道をめぐる絵師たちの往来に注目し、東海道が育んだ駿河の美術や文化をご紹介します。

■会期【全 38 日間】

2020 年 6 月 6 日（土）－7 月 19 日（日）

前期：6 月 6 日（土）－6 月 28 日（日）

後期：6 月 30 日（火）－7 月 19 日（日）

■休館日 毎週月曜日

■開館時間 10:00 ～ 19:00（入場は閉館の 30 分前まで）

■観覧料（予定）

一般 1,200（1,000）円、大高生・70 歳以上 800（600）円、中学生以下無料

*（ ）内は前売および 20 名以上の団体料金

*障害者手帳等をご持参の方および介助者原則 1 名は無料

■主催等（予定）

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会



静岡市指定文化財 土佐光成《駿府島瞰図》駿府博物館

●本展の見どころ

・東海道を描いた屏風がずらり！

東海道図屏風などにより旅と風景の豊かな世界を紹介します

・風光明媚な駿河は絵師たちの格好の画題！

江戸時代の絵画でよみがえる駿河の風景をご覧ください

・東海道が育んだ江戸時代を代表する絵師たちと駿河の文化人との交友！

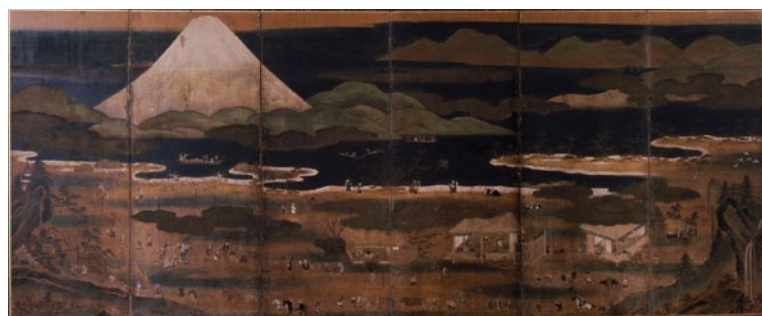
円山応挙、池大雅、浦上玉堂、司馬江漢…江戸を代表する絵師と駿河とのゆかりを紐解きます

展示構成

江戸時代以前の東海道を描いた貴重な作品！

第一章 描かれた東海道

慶長六（1601）年、徳川家康は江戸幕府開府に先んじて五街道の整備に着手します。江戸と京都を結ぶ東海道には五十三の宿駅が設置され、



《東海道往来図屏風》奈良県立美術館(前期)

参勤交代の大名行列や外国使節、旅人の往来等で大いに賑わいました。また、街道の繁栄とともに「東海道」を主題にした絵画が多く生み出されるようになりました。東海道図屏風もその一つで、その成立や享受層について詳細は未だ明らかではありませんが、旅の普及と木版印刷技術の発展により登場した菱川師宣《東海道分間延絵図》（元禄三／1690年）などの絵図類と近い時代に隆盛したとみられます。

東海道や宿場を描いた屏風がずらり！

朝鮮通信使、大名行列、鷹匠…生き生きと描かれた人々にも注目



朝鮮通信使



静岡県指定文化財《東海道図屏風》静岡市



静岡市新収蔵品 初公開！



《東海道図屏風》静岡市



江戸初期の街道の賑わいを今に伝える貴重な作品



《駿府城下行列図屏風》千葉市美術館



江戸時代中頃には出版物を通して多くの人々が各地の景観を詳細に知ることができるようになりました。江戸後期に葛飾北斎が浮世絵における風景版画を確立させると、続く歌川広重が各宿場の風景を抒情性豊かに描いた《東海道五十三次》を世に出し、東海道の絵画は一層人々に親しまれるようになります。

北斎と広重が描いた東海道



朝鮮通信使の一行

北斎 & 広重



画面に収まらない大きな富士
街道を進む人々にも注目！

左: 葛飾北斎《東海道五十三次 十四 原》
名古屋市博物館
右: 歌川広重《東海道五十三次之内 原
朝之富士》神奈川県立歴史博物館
ともに前期

江戸時代中期以降、東海道の間にある駿河でも、江戸と上方双方の文化の影響を受け、風景の描き方においても、新たな名所の発見など画題の面においても、多様な表現が展開しました。

富士山に三保松原は 室町からの伝統的な画題

伝雪舟《富士三保清見寺図》
(永青文庫) を規範として数多く
模写され続けられました



杉谷行直筆 深田正韶賛《富士三保清見寺図》清見寺

島田宿の素封家・桑原黙斎が 現地調査の際に描いたとされる



静岡市指定文化財 桑原黙斎《駿州用宗城墟眺図》誓願寺

現地写生をもとに描いた富士山



原在正《富士山図巻》



精緻な描写に注目

朝鮮通信使と東海道

清見寺で揮毫する
外国使節を描く



葛飾北斎《東海道五十三次 十七 由井》名古屋市博物館(前期)

清見寺の景観が朝鮮の洛山寺に似ていることから
朝鮮通信使の画員・金有声が清見寺住職の求めに応じて描いたもの



洛山寺 (部分)



静岡県指定文化財 金有声《山水花鳥図押絵貼屏風》清見寺

第二章 東海道が育んだ美術

東海道は文雅に親しむ駿河の文人たちと京や江戸の絵師たちとの交友を可能にしました。

十八世紀には、池大雅（1723－76）・与謝蕪村（1716－83）らの文人画（南画）や、円山応挙（1733－95）を祖とした円山派（円山四条派）、司馬江漢（1747－1818）の洋風画、伊藤若冲（1716－1800）、曾我蕭白（1730－81）など、江戸、京都を中心に民間の個性的な絵師たちが次々と登場し、多彩な絵画が展開します。

こうした新興の美術は、東海道を通じて詩書画を愛好した駿河の文人たちに歓迎されるとともに、絵画や俳諧などによる交流も行われました。

各家を彩った美術を一堂に！

原宿の名園・帯笑園を彩った円山応挙の襖絵

円山応挙《山水図小襖》東京国立博物館



応挙の弟子、芦雪と応瑞



曾我蕭白の山水画



幕府奥絵師・狩野栄信作

植松家が井伊家より拝領と伝わる



左から 長澤芦雪《戴竹図》東京国立博物館、円山応瑞《藤、朝顔に小禽》、曾我蕭白《山水図》東京国立博物館、狩野栄信《琴棋書画図屏風》東京国立博物館（前期）

浦上玉堂が送った藤枝の大塚家に送った手習い



浦上玉堂《山水図稿》常葉美術館

司馬江漢が描いた駿河の風景



司馬江漢《長沼村富士眺望図》静岡県立美術館



1、《東海道往来図屏風》 奈良県立美術館(前期)



2、県指定文化財《東海道往来図屏風》(右隻) 静岡市



3、《駿府城下行列図屏風》(左隻) 千葉市美術館



4、原在正《富士山図巻》(部分)



5、円山応挙《山水図小襖》 東京国立博物館



6、曾我蕭白《山水図》 東京国立博物館



7、司馬江漢《長沼村富士眺望図》 静岡県立美術館

※画像2、3は一双(P3参照)での提供も可能です